



2018年2月発行

キリストの名によって呼ばれる者

このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。
(使徒言行録 11章 26節)

イエス・キリストを信じている人のことを、クリスチャンとかキリスト者と言います。皆さんも「私はクリスチャンです」と言うことがあるでしょう。また、「あの人はクリスチャンだよ」と人から言われることもあるでしょう。ただその時、クリスチャンという言葉が良い意味で使われるのなら良いのですが、もしも「あれでもクリスチャン？」という意味あいで行われるとしたら、自分のためにイエス様の顔に泥を塗る結果になってしまいます。私たちはキリストの名によって呼ばれる者たちです。自分の言動がイエス様の評判にも関わってしまう、それほどイエス様と結びつけられているのです。

クリスチャンの呼び名が初めて誕生したのが、いまシリア領内にあるアンティオキアの教会です。アンティオキアに教会が出来たのは、エルサレムの教会に対する大迫害がきっかけでした。多くの信徒たちがエルサレムから逃れて北に向かい、その中にアンティオキアまでたどりついた人々がいたのです。アンティオキアにはもともと多くのユダヤ人が住んでいました。エルサレムから逃れてきた人々は、まず同胞のユダヤ人の中に入って主イエスに関する福音を語ったのですが、ユダヤ人以外の人々、すなわち異邦人に目を向けることはなく、彼らに福音を語ることはありませんでした。ところがこの人々の中にキプロス島出身の人々などがいて、古来からの慣習をやぶって、異邦人にもイエス様について積極的に語っていったのです。…こうしてアンティオキアに、異邦人が大半を占める教会が誕生しました。

さてそんな時、エルサレムの教会はどうなっていたのでしょうか。こちらの教会は大迫害で大多数の信徒が出て行ったあと、困難の中で少数の人たちが必死に教会を守っていった

ようです。教会に残った人々は、各地に散っていった人たちのことを、身を引き裂かれるような思いで案じていたのではないのでしょうか。そんな時にアンティオキアから知らせが来ます。新しい教会が出来て、異邦人がどんどん入ってきていると。エルサレム教会は喜んでバルナバを派遣しました。

これは親にあたる教会が子どもの教会を視察し、監督することのように見えるかもしれませんがそうではありません。教会と教会の関係は平等であるべきで、互いに相手のために仕えあうことが大切です。誕生したばかりの教会には不慣れなところがあったかもしれないので、先に出来た教会が助けの手を差し伸べたのです。…そして今度は、アンティオキアの教会の方が、飢饉の中で苦しむエルサレム教会に対し、援助の品を送り届けました。アンティオキアの教会の多くの人々にとって、エルサレムの教会の人々は言葉が違う、顔を見たこともない人々だったのですが、これこそが教会です。

それまでイエス様を主と信じる人々は、ユダヤ教の分派か異端のように見なされていました。しかしアンティオキアではじめて、教会の周囲の人たちは、彼らにあだ名をつけて呼ぶようになりました。「また始まった。この人たちは口を開けばキリスト、キリストと言っている」、そんな感じで「あいつらはキリストのことばかり言う、クリスチャンだ」と。ちょっとからかうような意味合いがあったかも知れません。

しかし教会の人々は、そのあだ名を喜んで受け入れました。そうして、自分でもクリスチャンだと言うようになったのです。私たちもまた、アンティオキア教会の人たちと同じ呼び名で呼ばれる者たちです。「わたしはクリスチャンです。キリスト者です」ということを、私たちがためらいがちにはなく、はっきりと、喜んで語って行くことが出来ますように。そうして私たちを通して、キリストがさらにたたえられますように。

(2018年2月4日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊